

ヘッドアタック・オーバーライン時の対応

・ヘッドアタックが発生したとき

タイムをかける 「ピーッ」「タイム」

コート内へ急いで入る 「センターラインから離れて座って」と選手に言う。

副審にボールを持つよう指示をする。

ヘッドアタックされた人のところに行き、様子を見る。

監督をコート内へ呼ぶ、様子を見てもらう 「監督、お願いします。」

ヘッドアタックかどうか判断に迷う場合は、副審に線審を集めるように指示をする。(自分でヘッドアタックと確認できた場合は、副審に線審を集める指示をしなくて良い)

副審と線審4人はセンターサークルの集合しヘッドアタックかどうか確認する。

そのまま続けるか、選手を交代するかを確認する。

コート内では、治療を行わない。

センターサークルのところへ行き、副審とヘッドアタックかどうかの協議をする。

センターサークル内での協議は、選手に声が聞こえないようにする。

センターサークルの後方で、プレーの説明をする。

(例)

「ただいまのオフィシャルタイムアウトについて、協議の結果を説明します。

番ヘッドアタック。 色内野ボールで試合を始めます。」

「セーフ」のジェスチャーをするときは、「番アウト」とアウトコールをしてから、オフィシャルタイムアウトをかけた場合のみ。

選手全員に聞こえるように、大きな声で。

ヘッドアタックで選手が負傷し、交代するときは

相手ベンチ、オフィシャル席に報告する 「番に代わり、番が入ります。」

センターライン延長線上に立ち、タイムインの動作とともに、「ピッ」と笛を吹き試合を再開する。

・外野からのアタック、内野アウト。線審からのオーバーラインのコールがあったとき

主審「ピッ、番アウト」

線審「ピーッ、番オーバーライン」

主審「ピーッ、青 番オーバーライン、白 番セーフ。白内野ボール。」

センターライン延長線上に立ち、ボールアップとディフェンスが整ったかどうか確認をしてから、タイムインの動作とともに、「ピッ」と笛を吹き、試合を再開する。